

災害時は「自らの命は自らが守る」 という意識を持ち、適切な避難行動をとりましょう。

新型コロナウイルス感染症が収束しない中でも、災害時には、危険な場所にいる人は避難することが原則です。避難とは「難」を「避」けること。安全な場所にいるなら、避難場所に行く必要はありません。また、豪雨時の移動は車も含めて危険です。早めに行動を開始しましょう。

自宅が安全な場所なら
在宅避難の検討を



安全な場所にある
親戚・知人宅への避難も選択肢のひとつ



避難所への避難も
ためらわず

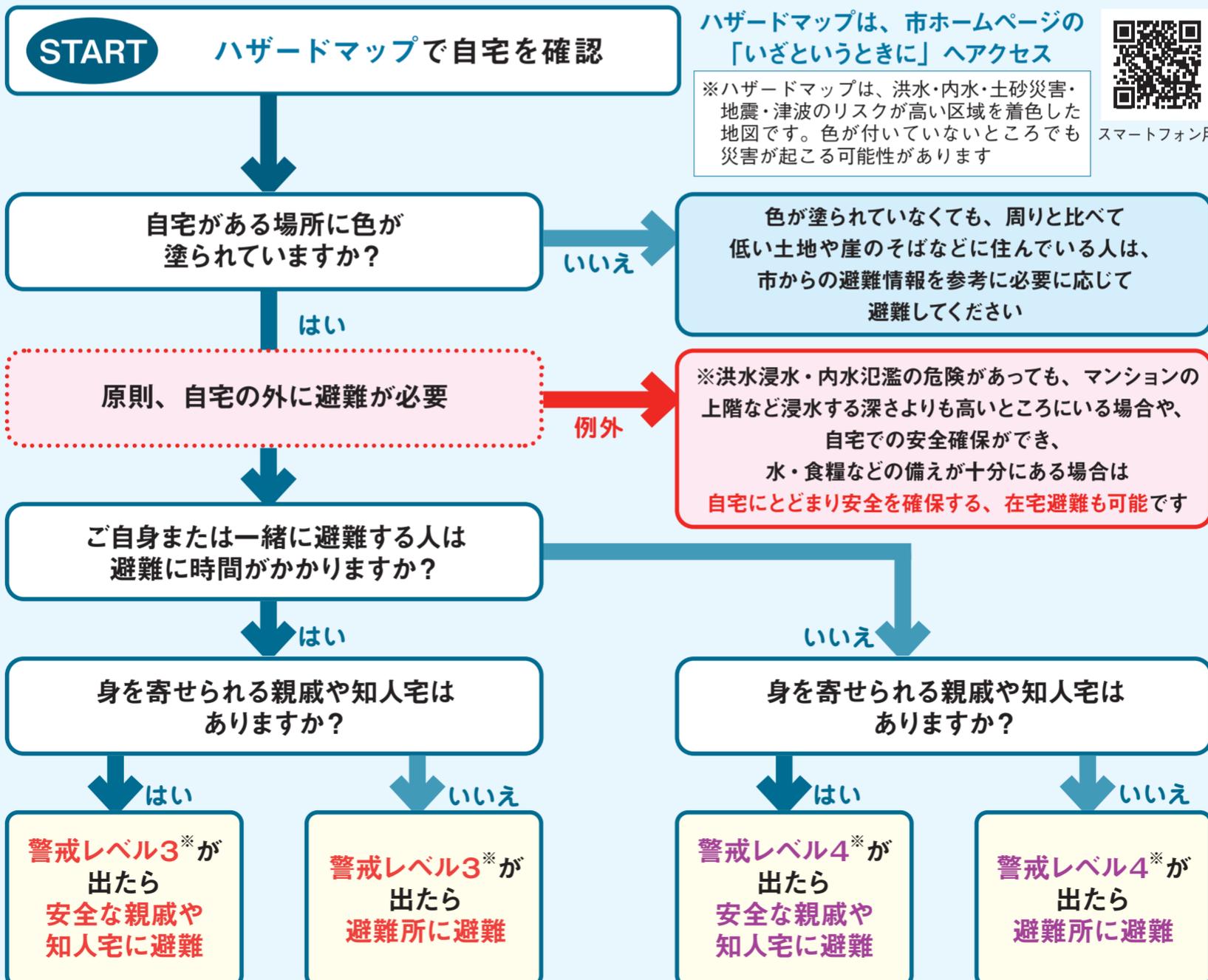


「いつ」「どこに」
避難する？

避難行動を事前にチェック!

日頃から、ハザードマップなどで自宅周辺の災害リスクを確認しておきましょう。なお、洪水浸水については神奈川県が想定を見直しています。平成30年1月に柏尾川、令和元年12月に神戸川、令和2年4月に滑川の洪水浸水想定区域が、新たに指定されました。詳細は中面をご覧ください。

避難行動判定フロー



ハザードマップは、市ホームページの「いざというときに」へアクセス



スマートフォン用

※ハザードマップは、洪水・内水・土砂災害・地震・津波のリスクが高い区域を着色した地図です。色が付いていないところでも災害が起こる可能性があります

※洪水浸水・内水氾濫の危険があっても、マンションの上階など浸水する深さよりも高いところにいる場合や、自宅での安全確保ができ、水・食糧などの備えが十分にある場合は自宅にとどまり安全を確保する、在宅避難も可能です

※警戒レベル3…避難準備・高齢者等避難開始、警戒レベル4…避難勧告、避難指示（緊急） 詳細は「防災特集」の最終面をご覧ください

洪水浸水想定情報マップ (大船・深沢・玉縄地区)

この情報マップは、大船・深沢・玉縄地区における水害に関する災害ハザード情報と避難所情報等を集約させたマップです。ご自宅とハザード情報を重ね合わせていただき、避難行動に役立ててください。

●洪水浸水想定の情報について

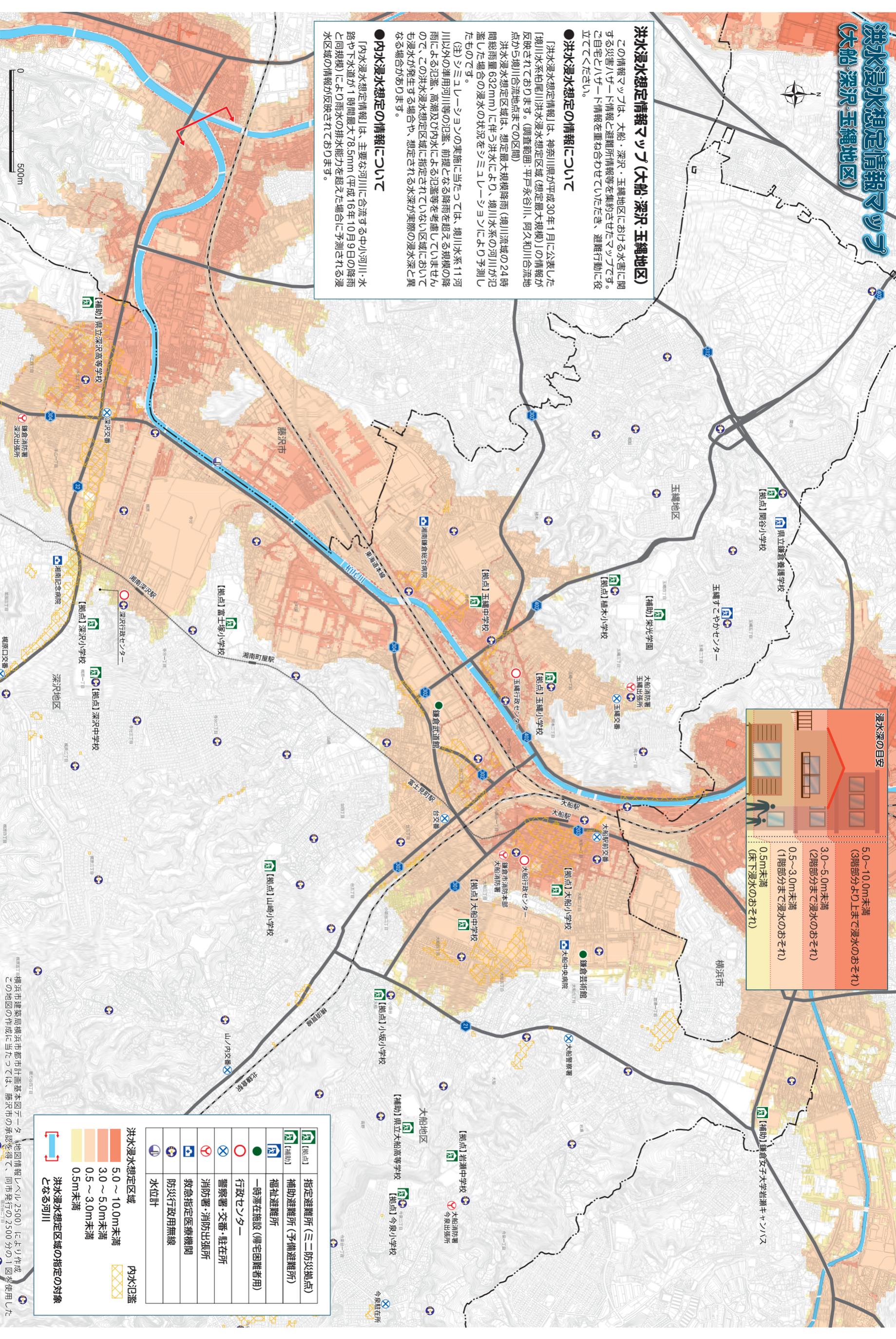
「洪水浸水想定情報」は、神奈川県が平成30年1月に公表した「境川水系相尾川洪水浸水想定区域(想定最大規模)」の情報が反映されております。(調査範囲: 平戸永谷川、阿久和川合流地点から境川合流地点までの区間)
洪水浸水想定区域は、想定最大規模降雨(境川流域の24時間総雨量632mm)に伴う洪水により、境川水系の河川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
(注)シミュレーションの実施に当たっては、境川水系11河川以外の準用河川等の氾濫、前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

●内水浸水想定の情報について

「内水浸水想定情報」は、主要な河川に合流する中小河川・水路や下水道が1時間最大78.5mm(平成16年10月9日の降雨と同規模)により雨水の排水能力を超えた場合に予測される浸水区域の情報が反映されております。

浸水深の目安

5.0～10.0m未満 (3階部分より上まで浸水のおそれ)
3.0～5.0m未満 (2階部分まで浸水のおそれ)
0.5～3.0m未満 (1階部分まで浸水のおそれ)
0.5m未満 (床下浸水のおそれ)



	指定避難所(三二防災拠点)
	補助避難所(予備避難所)
	福祉避難所
	一時滞在施設(帰宅困難者用)
	行政センター
	警察署・交番・駐在所
	消防署・消防出張所
	救急指定医療機関
	防災行政用無線
	水位計

	洪水浸水想定区域	5.0～10.0m未満
		3.0～5.0m未満
		0.5～3.0m未満
		0.5m未満

	内水氾濫
	洪水浸水想定区域の指定の対象となる河川

横浜市建築局横浜市都市計画基本図データ(地図情報レベル:2500)により作成
この地図の作成に当たっては、横浜市の承認を得て、同市発行の2500分の1図を使用しました

洪水浸水想定情報マップ

(腰越地区)

洪水浸水想定情報マップ(腰越地区)

この情報マップは、腰越地区における水害に関する災害ハザード情報と避難所情報等を集約させたマップです。ご自宅とハザード情報を重ね合わせていただき、避難行動に役立ててください。

●洪水浸水想定の情報について

「洪水浸水想定情報」は、神奈川県が令和元年12月に公表した「神戸川水系神戸川」洪水浸水想定区域(想定最大規模)の情報で反映されており、(調査範囲: 宇ひ橋から海までの区間) 洪水浸水想定区域は、想定最大規模降雨(神戸川流域の24時間総雨量309mm)に伴う洪水により、調査範囲の河川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。

(注) シミュレーションの実施に当たっては、神戸川の水位周知区間以外の河川等の氾濫、前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

●内水浸水想定の情報について

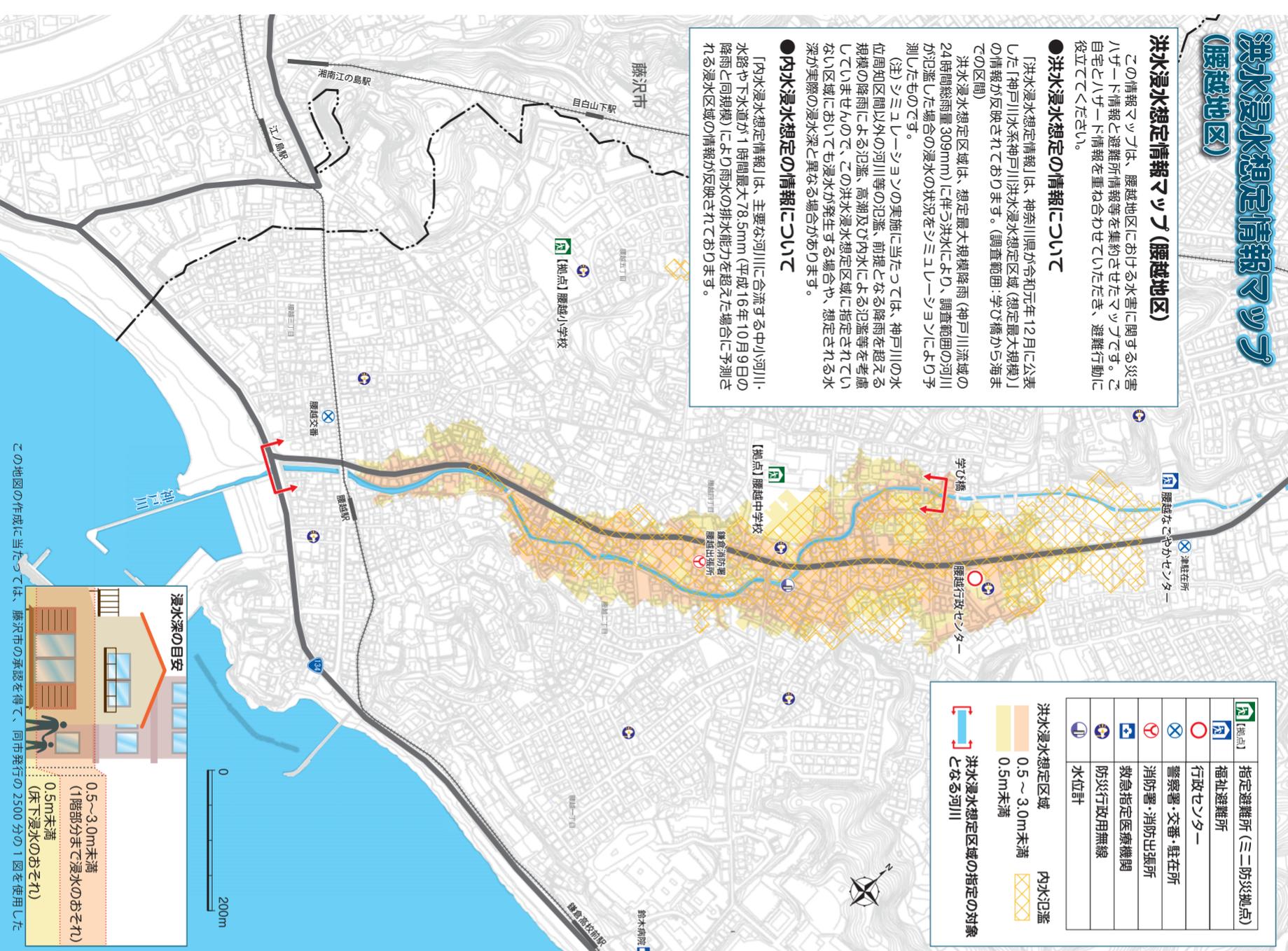
「内水浸水想定情報」は、主要な河川に合流する中小河川、水路や下水道が1時間最大78.5mm(平成16年10月9日の降雨と同規模)により雨水の排水能力を超えた場合に予測される浸水区域の情報で反映されており、

	指定避難所(三二防災拠点)
	福祉避難所
	行政センター
	警察署・交番・駐在所
	消防署・消防出張所
	救急指定医療機関
	防災行政用無線
	水位計

	洪水浸水想定区域
	0.5～3.0m未済
	0.5m未済

内水氾濫

洪水浸水想定区域の指定の対象となる河川



浸水深の目安

0.5～3.0m未済 (1階部分まで浸水のおそれ)

0.5m未済 (床下浸水のおそれ)

この地図の作成に当たっては、藤沢市の承認を得て、同市発行の250分の1図を使用しました

洪水浸水想定情報マップ

(鎌倉地区)

洪水浸水想定情報マップ(鎌倉地区)

この情報マップは、鎌倉地区における水害に関する災害ハザード情報と避難所情報等を集約させたマップです。ご自宅とハザード情報を重ね合わせていただき、避難行動に役立ててください。

●洪水浸水想定の情報について

「洪水浸水想定情報」は、神奈川県が令和2年4月に公表した「滑川水系滑川」洪水浸水想定区域(想定最大規模)の情報で反映されており、(調査範囲: 東勝寺橋から海までの区間) 洪水浸水想定区域は、想定最大規模降雨(滑川流域の24時間総雨量309mm)に伴う洪水により、調査範囲の河川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。

(注) シミュレーションの実施に当たっては、滑川の水位周知区間以外の河川等の氾濫、前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

●内水浸水想定の情報について

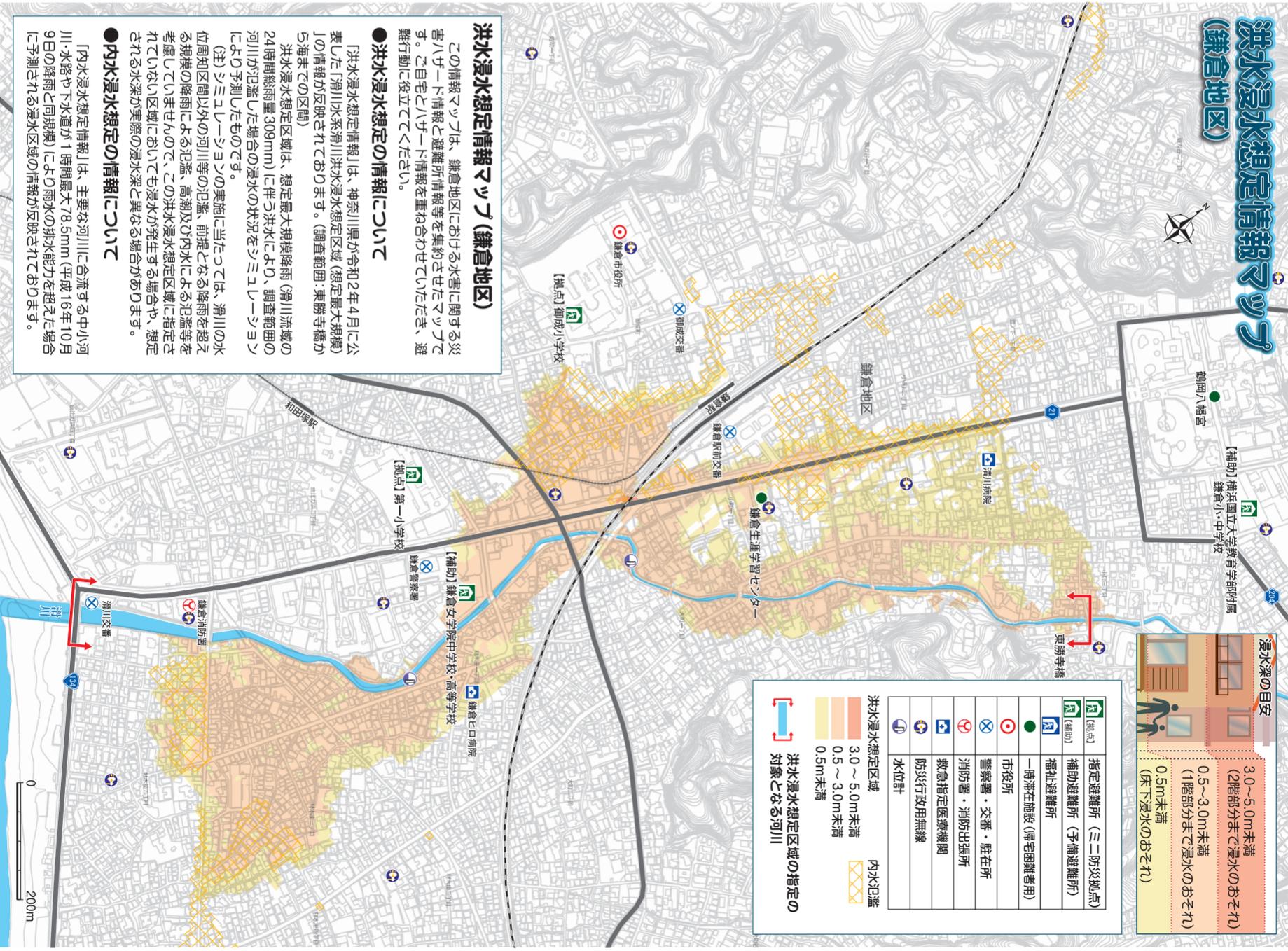
「内水浸水想定情報」は、主要な河川に合流する中小河川、水路や下水道が1時間最大78.5mm(平成16年10月9日の降雨と同規模)により雨水の排水能力を超えた場合に予測される浸水区域の情報で反映されており、

	指定避難所(三二防災拠点)
	福祉避難所
	一時滞在施設(帰宅困難者用)
	市役所
	警察署・交番・駐在所
	消防署・消防出張所
	救急指定医療機関
	防災行政用無線
	水位計

	洪水浸水想定区域
	3.0～5.0m未済
	0.5～3.0m未済
	0.5m未済

内水氾濫

洪水浸水想定区域の指定の対象となる河川



浸水深の目安

3.0～5.0m未済 (2階部分まで浸水のおそれ)

0.5～3.0m未済 (1階部分まで浸水のおそれ)

0.5m未済 (床下浸水のおそれ)

この地図の作成に当たっては、鎌倉市の承認を得て、同市発行の250分の1図を使用しました

分かりやすい配色に

新しくなりました

「警戒レベル」と「とるべき行動」をチェック!

「自らの命は
自らが守る」

警戒レベル	避難情報など	市民のとるべき行動
5	災害発生情報	命を守るための最善の行動を
4	避難勧告、避難指示（緊急）	危険な場所から速やかに避難
3	避難準備・高齢者等避難開始	避難の準備 ※避難に時間を要する人は危険な場所から避難
2	洪水・大雨注意報など	ハザードマップなどで避難行動を確認
1	早期注意情報	災害への心構えを高める

✓ 移動が危険な場合
 近くの安全な場所や自宅内より安全な場所へ避難を。

✓ 新しい避難のポイント
 危険な場所にいる人は避難し、安全な場所にいる人は避難所に行く必要はありません。

! 津波の場合
 危険な地域からの一刻も早い避難が必要なことから、全て「避難指示（緊急）」となり、警戒レベルは用いません。

感染防止対策もお願いします

避難所での新しい対策・過ごし方をチェック!

災害時には、感染症の拡大リスクが高まります。人が集まる避難所などで、新型コロナウイルスなどの感染症に「自分がかからない」、かかっても「他人にうつさない」ため、新しい対策や過ごし方を確認しましょう。

避難の際には



の携行を

✓ 非常用持出袋に入れておくなど、自分の分は自分で用意しましょう。



など、基本的な対策を心掛け、「新しい生活様式※」は避難所でも実践を

✓ 避難所では衛生状態を保つことが大切です。感染症予防のために手洗いや咳エチケットを心掛けましょう。症状がなくてもマスクの着用を。マスクがない場合は、ティッシュや腕で口や鼻を覆いましょう。



は、多くの人が利用します。きれいに使いましょう

✓ ※新しい生活様式
 新型コロナウイルスからのいのちを守る

3つのマナー



人との間隔を空ける



マスクを着ける



手洗いをする

おうとげり
嘔吐・下痢・発熱など



! 症状があれば、すぐに申し出を

避難所にパーテーションを配置します

プライバシーの確保や、感染防止対策として、避難所（ミニ防災拠点）に避難所用パーテーションを配置予定です。

